

# 大津企業景況調査報告書

(第49回)

平成22年 4月～ 6月期 実績

平成22年 7月～ 9月期 見通し

大津商工会議所

# 大津企業景況調査について

(平成22年4月～6月期)

## 1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

## 2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	18社	90.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	8社	80.0%
小売業	30社	23社	76.7%
サービス業	30社	24社	80.0%
合計	100社	83社	83.0%

## 3. 調査期間

調査対象期間は平成22年4月～6月とし、調査時点は平成22年6月1日とした。

## 4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

## 景況感、リーマンショック前の水準を上回る

平成 22 年 4 月～6 月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数として DI 指数（景気動向指数）を採用している。DI 指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

### 全体

景況感は、ほぼ 1 年間、緩やかな改善傾向が続いていたが、今期は急速に改善しリーマンショック前の水準を上回った。売上をはじめ各指標とも改善がみられる。業種別では、業況判断 DI が製造業と卸売業では約 2 年ぶりに前年比プラスに転じたが、建設業では±0、小売業、サービス業ではマイナス域にとどまっており、回復度合にはバラツキがある。先行き見通しは、国内の政策効果の息切れや欧州の信用不安、円高等の要因による先行き不透明感から慎重な姿勢を示しているように見られる。

#### □ 業況判断 DI（前年同期比）は 5 期連続改善、今期は 29 ポイントの急回復

「前年同期比でみた業況判断 DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、5 期連続改善となったが、特に今期は▲10 と前期比 29 ポイントも急回復し、リーマンショック前(20 年 7-9 月期)の▲37 を上回った。中でも製造業と卸売業は、ほぼ 2 年ぶりに前年比プラスに転じたが、建設業は大幅改善するも±0、小売業、サービス業も改善するもマイナス域にとどまっている。

#### □ 売上 DI（前年同期比）は減少幅が 26 ポイント縮小し改善

「前年同期比でみた売上 DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前期の▲37 から今期▲11 と売上の減少幅が大幅に改善した。業種別にみると、製造業と卸売業は増加(前年比プラス)に転じたが、建設業は改善するも±0、小売業、サービス業も改善するもマイナス域にとどまっている。

#### □ 採算 DI（前年同期比）は悪化幅が 26 ポイント縮小し改善

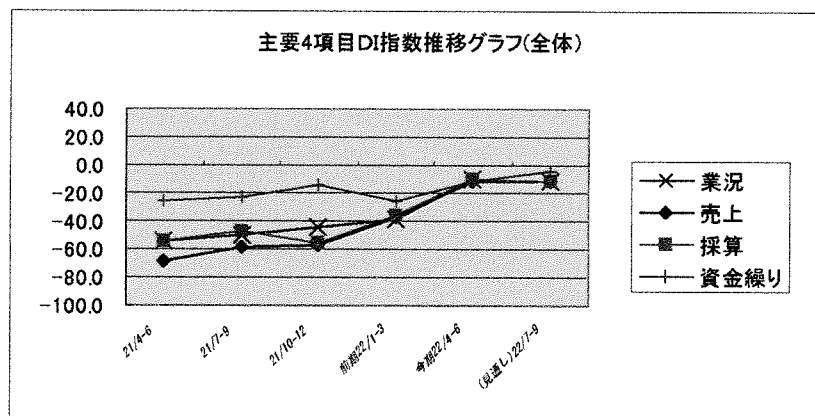
「前年同期比でみた採算(経常利益) DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前期の▲36 から今期▲10 と悪化幅が 26 ポイント縮小した。業種別にみてもほぼすべての業種で悪化幅が大幅に縮小し改善した。

#### □ 資金繰り DI（3 ヶ月前比）は悪化幅は縮小

「3 ヶ月前比でみた資金繰り DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前期の▲25 から今期▲12 と悪化幅が縮小したが悪化はまだ続いている。長引く不況による業績の悪化が影響しているとみられるが、ほぼすべての業種で悪化幅は縮小している。

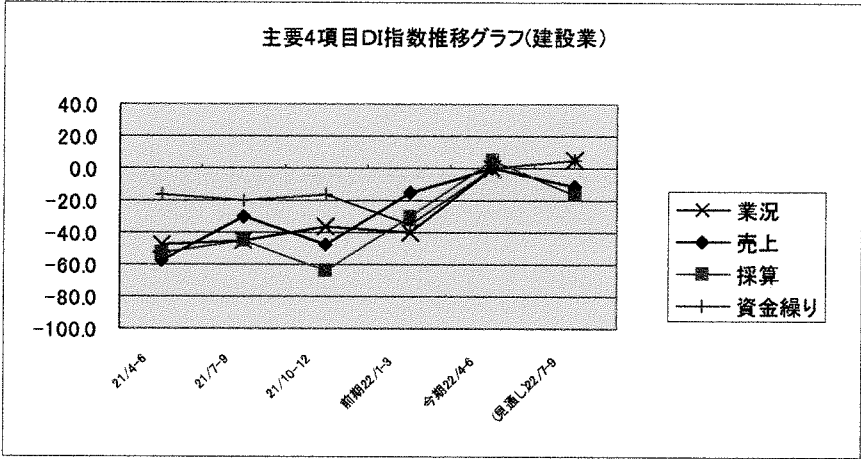
#### □ 従業員 DI（前年同期比）はやや過剰感が続く

「前年同期比でみた従業員 DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、前期の▲4 が今期▲6 と、やや過剰状態が続いている。業種別にみると、製造業は前期も今期も▲30 と人員過剰気味で推移しており、建設業、卸売業もやや過剰になっている。



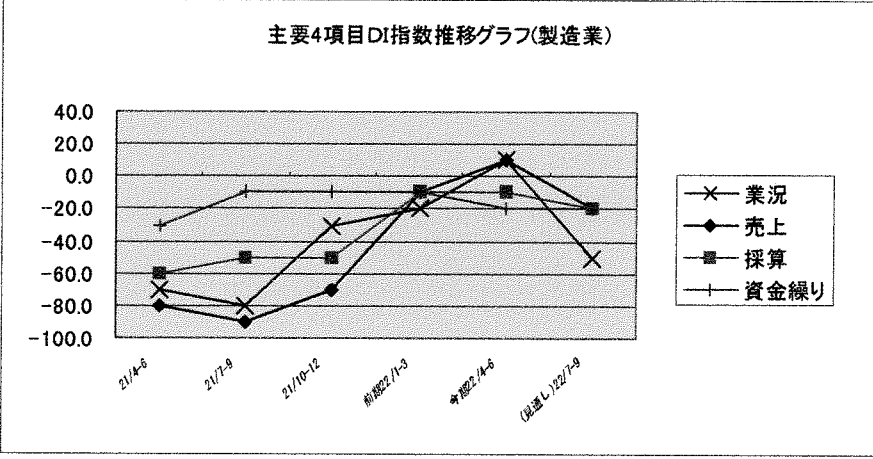
**建設業**

DI 指数をみると、「業況」は前期の▲40 から今期±0 と大幅に改善した。「売上」は前期の▲15 から今期±0 と減少に歯止めが掛かり、「取引の問合せ」は前期の▲55 から今期▲39 と低調ながら改善した。「採算水準」はやや赤字ではあるものの、「採算」は前期の▲30 から今期+6 と大幅に好転したことが、景況感を大幅改善させたと思われる。「従業員」は前期の±0 から今期▲11 と再びやや過剰となった。「資金繰り」は前期の▲35 から今期±0 と悪化に歯止めが掛かった。



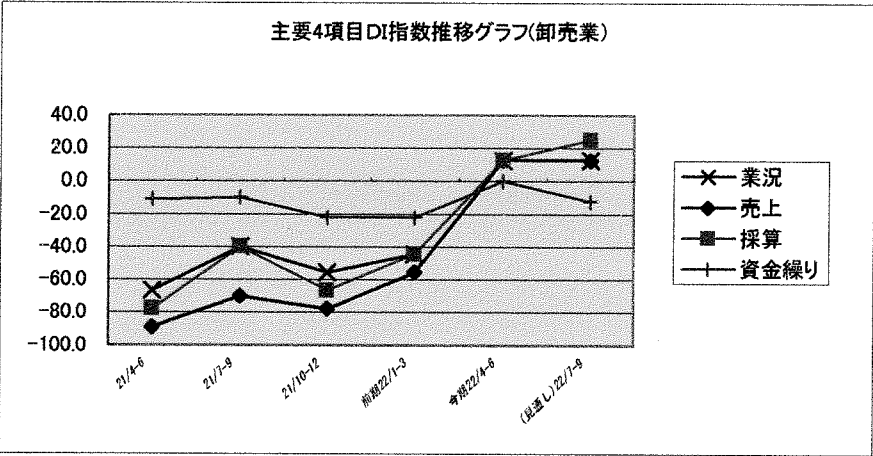
**製造業**

DI 指数をみると、「業況」は前期の▲20 から今期は+10 と2年ぶりにプラスに転じた。「採算水準」が前期の+30 の黒字が多い状態を今期も維持したままで、「売上」が前期の▲10(減少)から今期+10へ増加に転じたためとみられる。「取引の問合せ」は▲30 のままであり、「従業員」も▲30 のままである。業況の改善は大手製造業にみられる持ち直しの動きが地域の中小製造業にも波及してきたためとみられる。



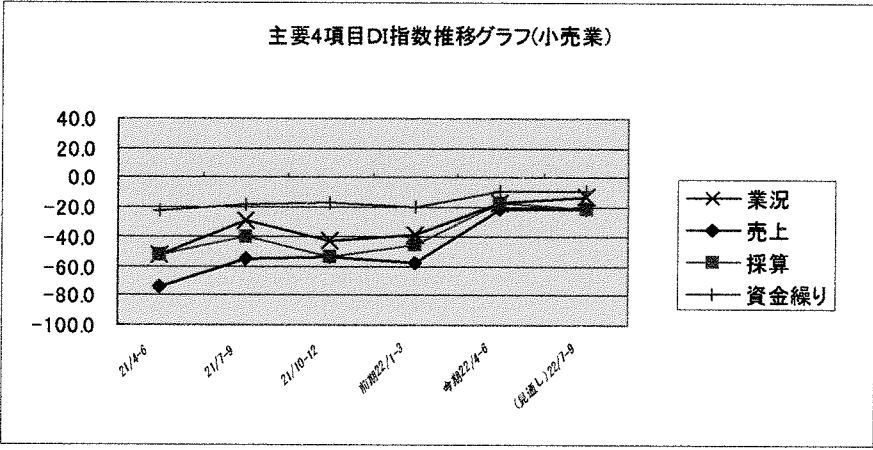
**卸売業**

DI 指数をみると、「業況」は前期の▲44 から今期は+13 と約 2 年ぶりにプラスに転じた。これは「売上」が前期の▲56 から今期+13 と増加に転じ、「採算水準」（経常利益）はまだ赤字が多いものの改善し、「採算」も前期の▲44 から今期+13 と好転したためとみられる。「取引の間合せ」は前期の▲56 から今期▲38 と低調ながら改善した。「資金繰り」は前期の▲22 から今期±0 と悪化に歯止めが掛かった。



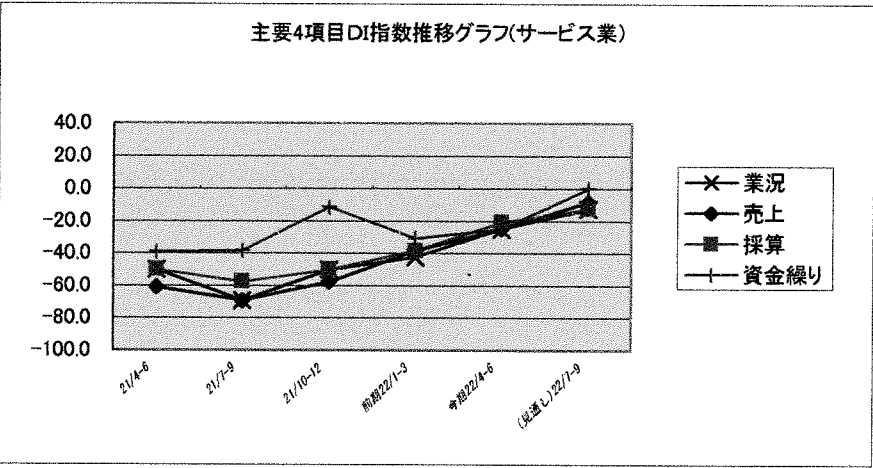
**小売業**

DI 指数をみると、「業況」は前期の▲39 から今期は▲17 と改善したがまだマイナス域である。「売上」は▲58 から▲22 と減少幅が縮小した。「採算」は▲46 から▲17 と悪化幅が縮小し、「採算水準」は▲27 から▲22 に赤字ながら改善した。「取引の間合せ」は▲50 から▲26 と低調ながら改善した。可処分所得の減少から個人消費が低迷していること、競争激化で販売価格が下落傾向にあること等から依然厳しい情勢の中でコスト削減等の改善努力をしているとみられる。



**サービス業**

DI 指数をみると、「業況」は前期の▲42 から今期は▲25 に改善したがまだマイナス域である。「売上」は前期の▲39 から今期▲25 に改善し、「採算」も▲39 から▲21 に改善した。ただし「取引の間合せ」は▲46 から▲42 と低調で、「資金繰り」は▲31 から▲25 とまだ悪化が続いている。このように業況はやや改善したものの、個人消費の低迷、法人需要の伸び悩みでまだ厳しい状況が続いている。



来期(3ヵ月先)の見通しについて、全体の「業況」は急回復した今期の▲10 から1ポイント悪化して▲11 と足踏み状態になる見通しをしている。「売上」は1ポイント悪化して▲12、「採算」も3ポイント悪化して▲13、「従業員」も1ポイント悪化して▲7の見込み。「資金繰り」は7ポイント改善して▲5の見通しを立てている。業種別の業況判断をみると、卸売業ではプラスを維持し、建設業はプラスに転じる見込みを立てているが、製造業は再びマイナスに転じると見込んでいる。小売業、サービス業は、今期より改善するものの、マイナス域を脱しないと見込んでいる。

これは国内の政策効果の息切れや欧州の信用不安、円高等の要因による先行き不透明感からの慎重な姿勢を示しているものとみられる。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合は前期の20%から5ポイント減少して15%。製造業が前期の20%から30%に増加した一方、その他の産業では、前期から比べて今期は減少した。投資企業の投資内容の割合は更新投資が50%で最も多く、合理化・省力化投資が17%、生産力増加投資が17%になっている。投資方針は、「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前期33%から今期50%に増え、「景気動向によって見直す」が前期44%であったが、今期は33%に減った。

これは、現在の業況の回復を実感していることが、今後の設備投資方針に反映しているためとみられる。

(MBA・中小企業診断士 田中清行)

## (今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は5社であった。

- ・クレジットについて：経営者の指導に基づき、クレジット会社の自主規制により回収が若干難しくなっている。成人年齢の引き下げについて：当社の業種から、もし成人年齢が引き下げられるとすると、成人式衣裳の販売に非常に不安を覚えます。
- ・所得に応じてならわかりますが、一律の子供手当ではどうかと思います。国を赤字にしてまでバラまかない様に、我々は頑張っているのですから。
- ・ここ10年間で低成長、不振（地価の下落等）に慣れることに新ビジネスが軌道にのりつつある。
- ・尚政局の不安定により、購買意欲が停滞が続く、7月から9月は特に辛抱の期間だと思っています。しかし大企業はそれぞれ黒字決算を出しておりますので、中小企業にも経済回復が早く来るように、せめて夏頃から年末にかけて小さなバブルが来るくらいの願いを持っています。
- ・やはり受注が少ない。大津市のリフォーム助成のさらなる増加をお願いしたい。

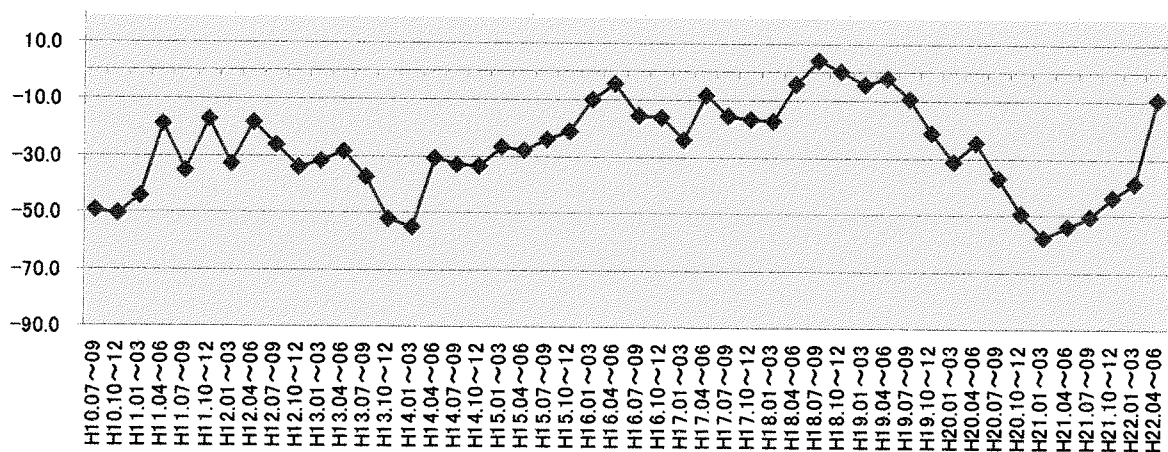
D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し
全 体	▲ 9.6	▲ 10.8	▲ 10.8	▲ 12.0	▲ 9.6	▲ 13.3
建 設 業	0.0	5.6	0.0	▲ 11.1	5.6	▲ 16.7
製 造 業	10.0	▲ 50.0	10.0	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 20.0
卸 売 業	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0
小 売 業	▲ 17.4	▲ 13.0	▲ 21.7	▲ 21.7	▲ 17.4	▲ 21.7
サービス業	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 8.3	▲ 20.8	▲ 12.5
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し	4-6 月期 動 向	7-9 月期 見通し
全 体	▲ 13.3	3.6	▲ 34.9	▲ 30.1	▲ 6.0	▲ 7.2
建 設 業	▲ 5.6	16.7	▲ 38.9	▲ 55.6	▲ 11.1	▲ 11.1
製 造 業	30.0	20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0
卸 売 業	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 12.5
小 売 業	▲ 21.7	▲ 13.0	▲ 26.1	▲ 30.4	0.0	▲ 4.3
サービス業	▲ 25.0	8.3	▲ 41.7	▲ 12.5	4.2	0.0
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	



	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し	4-6月期 動向	7-9月期 見通し
全体	▲ 12.0	▲ 4.8	▲ 4.8	▲ 4.8	▲ 2.4	▲ 1.2
建設業	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	10.0	10.0
卸売業	0.0	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 12.5
小売業	▲ 8.7	▲ 8.7	4.3	0.0	0.0	0.0
サービス業	▲ 25.0	0.0	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 4.2
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始(H10.4~6期)以降 業況DI指数推移グラフ(全体)



## 大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>